

検診を受けたあとは

- センター型検診・集団検診の検診結果は2～3週間後に郵送でご自宅に届きます。
- 検診の結果が「要精密検査(要医療・要精検)」の場合は、必ず医療機関を受診してください。
結果が「要精密検査(要医療・要精検)」にも関わらず受診が確認できないかたは、ご本人(もしくは医療機関)に精密検査受診状況を確認させていただく場合があります。
- 精密検査の受診について、かかりつけ医があるかたは、「保険証」・「結果報告書」・「精密検査依頼書」を持って、まずは、かかりつけ医を受診してください。かかりつけ医がないかた・どこの医療機関に行けば良いのか分からないかたは「あいち医療情報ネット」での検索が便利です。



▲あいち医療情報ネット

(QRコードが読み取れないかたは、「あいち医療情報ネット」で検索してください。)

診療科目は、要精密検査となったがん検診の種類によって異なります。

- **胃がん検診**：消化器科／消化器内科 または 胃腸科／胃腸内科
- **肺がん検診**：呼吸器科／呼吸器内科
- **大腸がん検診**：消化器科／消化器内科 または 胃腸科／胃腸内科
- **乳がん検診**：乳腺外科
- **子宮頸がん検診**：産婦人科系(産婦人科・産科・婦人科)

※すべての医療機関が網羅されているわけではありません。また、施設・企業内の診療所等、一般診療を行っていない医療機関も結果表示されます。

※サイトの内容に変更がある場合もありますので、受診される場合は直接医療機関へ確認されることをお勧めします。



<精密検査の方法>

- **胃がん検診**：胃内視鏡検査を行います。胃内視鏡検査では、口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察します。検査で疑わしい部位が見つければ、生検(組織を採取し、悪性かどうか調べる検査)を行う場合もあります。
- **肺がん検診**：CTまたは気管支鏡検査などを行います。CTでは、X線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。気管支鏡検査では、気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。
- **大腸がん検診**：第一選択は全大腸内視鏡検査です。全大腸内視鏡検査では、下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して大腸を撮影し、がんやポリープなどがいないか調べます。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。大腸の奥まで観察することが困難な場合もあり、その場合は他の検査方法が用いられることがあります。
大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合には、内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。大腸のX線検査は、下剤で大腸を空にした後に、肛門からバリウムを注入し、空気で大腸をふくらませて大腸全体のX線写真を色々な方面から撮影する検査です。
- **子宮頸がん検診**：コルポスコープ検査(またはHPV検査)を行います。コルポスコープ検査では、コルポスコープ(腔拡大鏡)を使って子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つければ、組織を一部採取して悪性かどうかを診断します。また、細胞診の結果によってはHPV検査を行い、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。
- **乳がん検診**：マンモグラフィ追加撮影、超音波検査、細胞診・組織診を行います。マンモグラフィ追加撮影では、疑わしい部位を多方面から撮影します。乳房の超音波検査では、超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。細胞診・組織診では、疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか診断します。

出典:国立がんセンターがん対策情報センター「がん検診受診者への説明資料」